

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんあんclass行啓通りルーム		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 12 月 5 日		～ 令和 6 年 12 月 28 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和 6 年 12 月 5 日		～ 令和 6 年 12 月 28 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 4 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週ごとの療育案と日ごとの療育案を準備して、職員の役割分担や配置、動きの流れ等を共有できるようにしている。また、基本的な組み立てとして体幹や基礎体力を養うための運動を中心とした活動と集中力や巧緻性を養うための座位を中心とした活動の組み合わせによって児童が飽きたり集中が途切れないように工夫している。	児童が利用中は職員全員での打ち合わせ等が難しい場合は多い為、当日の役割や注意点がわかりやすいような日案を作成し、全員が共通の認識で療育に臨めるようにしている。ただ、その日の児童の状況に合わせて内容を変更する等臨機応変な対応もできるように職員が意識している。	ダンス療育を取り入れたり、季節ごとのイベントを計画するなど児童が楽しく通える工夫を行っている。これは今後も様々なイベントを企画していきたいが、準備が追いつかずお知らせが遅くなってしまいうることもあるため、早めの計画と周知、実行していきたい。
2	定期的なミーティングや日常的な報告、相談、検討の時間を設け、情報共有を行うようにしている。	少なくとも月に1回は全児童の近況を職員全員で把握し、それまでの経緯とその後の課題について共通の認識を持つように意識している。	今後は児童の近況を共有することに加えて、本人や保護者の通園先や自宅での困りごと、新たなニーズ、身につけたい目標など各職員が児童と関わる中でヴィジョンを描いて支援することがしやすいような施設環境を整えていきたいと思う。
3	幼児期の児童が中心の為、まずは各児童が安心して過ごせる場所の確保を優先して行っており、様々な特性のある児童が利用しているが早期に利用を中止してしまう児童は少なく安定的に通所することができるようになってきている。	絵カードやイラストを使用してコミュニケーションの幅を確保するように努めている。 特性などによって集団やコミュニケーションに困難を抱えている児童には無理に活動への参加を促すのではなく、安心できる場所、楽しい場所であると認識できるまで必要に応じて個別の対応や本人の思いを受け止めることを優先している。	様々な年齢や特性や心理的な状態でも安心感を抱けるような余裕をもった対応ができるように職員の人員数を確保していきたい。新規採用に加えて、職員が安定して勤務できる体制と急な勤務変更にも対応できるように日頃からの職員同士のコミュニケーションを大切にしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	配置基準に対しての人員は充足していても、個々の児童の特性や状態に合わせた対応が必要な場合に、安定的に余裕をもった人員確保ができていると言えない。	昨今の状況として通所を希望する児童の中に行動障害が顕著な児や言語でのコミュニケーションが困難な児、集団活動に極端な拒否がみられる児など、個別対応や集団の中でも特別に支援の必要と思われる児童が複数いることで、配置上の人員は適正でも結果として業務の中では対応が追いつかないケースが出てきている。	まずは職員全体の勤務体制を整え必要な曜日には余裕をもった人員で臨めるように調整すること。加えて各児童の利用の曜日や頻度を見直すタイミングがあれば保護者や本人の希望に沿う事を前提としつつ特別な対応が必要な児童がなるべく重ならないように調整をし、保護者、児童、職員が全体としてバランスの取れた状態に調整していく工夫が必要と考える。
2	ペアレントトレーニングも含めた、保護者との交流、学び合う機会を作ることができていない。また、その他にも児童の通園先等関係機関との情報共有や地域での他者、他児と関わりを持つような機会を提供出来ていない。	日常の療育活動、業務以外に交流会や研修会を企画して実行する余力がないというのが一番の要因だと思う。 また、地域での活動に関しては活動内容を検討する段階であまり選択肢があがっておらず消極的になっている現状はある。	今後は年間計画として交流会等の検討を進め、年齢別や兄弟の有無、通園しているかどうかなどの状況別に交流会や茶話会を開きたいと考えている。その他にも地域で開催されている研修会等のお知らせを積極的に保護者に行っていきたい。また近郊の施設などと連携を図り、一緒に活動を行う等の企画を検討したい。
3	避難訓練やイベント、日常の療育内容などが保護者にわかりやすく伝わっていない点がある。	事業所で実施している訓練やイベントの様子を「おたより」等の形で周知できていない。送迎時やノートでの報告はすることはあっても内容が伝わりにくくなってしまっていると考え。	定期的な「おたより」によって簡易的にでも訓練やイベントの実施報告を行っていく。また、ブログやSNSを活用して写真等の視覚的にも伝わりやすい方法で療育内容等を発信していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 あんあんclass行啓通りルーム

公表日 令和 7 年 1 月 4 日

対象者数

29名

回収数

29名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25	1		3		活動のスペースの安全と確保には今後も継続していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	21	2		6	送迎ができる職員の方が少ないのかもと思う事がありました。	今、どんな先生がいるのか、また専門の先生がいるのか知ることが出来るとうれしい。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	3		6		子どもがどんな風に活動に参加しているのか実際の様子を見る機会があると嬉しい。面談時に活動の動画があればイメージしやすいかなと思います。たぶん家での様子と違うおもうので見てみたい。一緒に参加すると崩れてしまうと思う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	23	1		5	少しにおいが気になる。	換気扇での常時換気に加え定期的な窓の開閉による換気を実施していきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26	2		1		作業療法士、心理担当職員等が行っている訓練の様子をもう少し発信していきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27	1		1		公表する支援プログラムを準備中のため整い次第お知らせしていきます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28	1			半年に一度見直ししているのでその時のやって欲しい事に出来てくると思う。	本人との日頃のコミュニケーションから読み取れるニーズ、ご家族からのご自宅での様子、お困りごとを発達支援の観点から分析して計画を立ててまいります。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26			3		支援計画書の説明をより丁寧に実施していきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27	1		1		ダンス療育では、使用する曲を、より児童たちがリアルタイムで身近に感じられる曲にする為に新たにご家族にアンケートを実施しました。 また、新しい活動の取り入れや既存の活動内容でもルールや環境に変化を加えて活性化されるように工夫しています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	10	1	12	そういう話を聞いたことがない。	グループでの運動会などは他のルームや保育園との合同で実施していますが、今後はより当ルームのある地域に密着した形でのイベント等を企画していきます。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29					今後も利用開始時の説明を丁寧に行っていきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25	4				支援計画書の説明をより時間を確保して丁寧に行っていきます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	9	4	6	親子参加のイベントがもう少しあってもいいと思う。 相談などがしやすい環境ではなかったので今後はペアレントトレーニングの機会や研修会とのご案内を積極的にお知らせする等して、一緒に学んだり相談することができる機会を増やしていきます。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	26	3			帰りの送迎で簡率的にも今日のあった事を伝えていない先生がいる。連絡帳もコメントない日もある。 先生によってばらつきがあるように思います。	職員間での情報共有をより多くし、ご家族が知りたいと思っている事柄を送迎職員も含めて誰でもしっかりと伝えられるようにしていきます。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	26	2		1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	9	5	6	兄弟向けのイベントは少ないと思う。デイの保護者は子どもたちが言わないと知らない。今年はイベントに出たため見たことあるかも程度。	親子遠足やグループ合同の運動会は実施しておりきょうだいで参加される方もいますが、今後はより相談などがしやすい少人数での茶話会やきょうだいのいるご家族限定の交流会など、ピアカウンセリングが生まれやすいような機会を検討していきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25	2		2		いつでも気軽に相談していただける雰囲気醸成を行っています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27	1			されているが、連絡帳の記入漏れ、書類の回収漏れがあり少々不信感を持った先生による。	連絡帳の記入漏れや書類の回収等がないよう荷物の中の確認を徹底し、連絡ノート、サービス記録はダブルチェックを行い抜けがないように努めています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	2		1	SNS開始の前に確認してほしかった。あまりない気がします。	4半期ごとのお便り、ブログに加えてSNSを開発しました。開設とアンケートの実施時期が同時になってしまいましたので、今度は余裕をもって事前調査を徹底していきます。また、計画立案のスピードを上げ、こちらも余裕を持ってスケジュールをお伝えできるよう努力します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27			2		鍵付きのロッカーにて管理をしています。個人情報については児童のみならずご家族の情報も含めて今後も十分に注意していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21	2		6		利用開始時に説明を行っています。訓練の実施状況について周知が不足していたためお便り等で周知をしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	2		9		年間計画を立て、定期的に訓練をおこなっております。今後はご自宅での会話が防災意識の向上につながるよう、ご家族にも実施情報を積極的にお知らせしていきたいと思っております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26			3		安全計画等の存在と実施状況をお便り等で周知していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	2		2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	27	2				今後も児童がまずは安心して通所できる場所であり続けられるよう本人主体を大切にしています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	4	2	1	楽しみにしています。	楽しみながら通所できるように対応していきます。お子さんの特性や趣向に配慮して支援を行っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	28	1				今回いただいたご意見に真摯に向き合い改善して、より多くの保護者様、お子様に満足していただけるよう行っています。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	あんあんclass行啓通りルーム	公表日	令和 7 年 1 月 6 日
------	------------------	-----	----------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			利用児童が多い時には人員が足りないと感じる時もある。 身体を動かす活動の際はやや狭さを感じる。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		手が足りないと感じる時がある。 数は足りているが児童の特性や状態を考慮すると足りないと感じる。 マンツーマンでの対応が必要とする児童が多い日は職員数に余裕があると安心できると思う。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		その時々児童に合わせて、絵カードなどを使用して自分で気がつけるような物を使用している点。	どちらともいえない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		カーテンで空間を仕切ること集中できる環境になった。	必要に応じて使える環境ではあるも個別活動で使用中には足りない時もある。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			ミーティングで共有はしているがさらに日々の日課として行えるようにしたい。 児童の目標やニーズを全職員が把握できているとは言えない。 レク担当者自身が自分で進めて反省はしているが、他の職員と一緒に振り返るとより良い。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングで話すように工夫している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		グループや外部研修、児発管研修を受講した。また、オンデマンド研修も活用している。		
適切な	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者との共通理解を深めるために工夫しています。	客観的に、という点が不足しているかと思うので、発達検査等を応用してアセスメントできるとより良いかと思う。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的にミーティング等で情報共有し、相談、検討しながら計画を作成している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		サービス提供記録と一緒にファイリングすることで確認しやすいようにしている。	共有は行われているが日々意識を向けながら支援できているとは言えない。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		さらに全職員が見て分かるようなアセスメントの材料を増やす予定。	フォーマルなアセスメントはなかなか実施できていないと思う。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			偏りがある。 常勤職員では話し合いが出来ているが、より多くの職員の意見を取り入れると良いと思う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		元々の活動内容をアレンジする等で工夫している。 新しいものを考え、提案、実施、振り返りをしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		毎日児童の状況に応じて支援が行われている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の特記した連絡や注意点、進行方法は日案に細かく記載して連携をしている。	日案で確認する体制になっているが確認されていない時もある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		退勤時に特記事項の情報共有をしている。 送迎終了後に話し合って情報を共有し対応を検討している。	終了後に打ち合わせの時間をとるのは困難。 毎日の記録はしているが、それを全職員で次に生かす意識は少ない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議の機会がないが、保育園との会議等には児発管が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			通園先との情報共有が足りていないところもある。送迎時に、こちらから問い合わせる機会を設ける必要がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			現状は入学を対象とした児童はいない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		児マネへの相談、助言は必要に応じてもらっている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		予定が合わず、機会があったが実現できなかった。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎に報告し、自宅での様子を確認している。	送迎時や連絡ノート以外にお便り等での情報発信はより必要かと思う。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		あまり実施できていないため、まずは研修会等情報をお知らせしていきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始前に来所していただき説明を実施している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児童本人に確認することが難しいためご家族の意向を確認している。	保護者からの話は時間を確保して聞き取りを行っているが、児童本人の話をより取り入れる方法を検討する必要がある。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			親子レクは実施しているが父母のみの会を今後実施できるように企画していきたい。年齢別や兄弟の有無、通園の有無等にグループ分けをしての茶話会、交流会を企画していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			もう少しHP,SNSの活用をしていくのも良いと感じる。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			訓練を頻回にはできていない。訓練をしても、保護者への周知が不十分であった。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			パターン化してしまっているところもあり、あらゆる状況をそういて行えるようにしたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			家族への周知は不十分である。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			毎月ミーティングにて共有し、再発防止案を出している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				